

宗教者9条の会・大分にゅーす

34

●発行：宗教者9条の会・大分 ●〒879-5102由布市湯布院町川上3561見成寺 TEL 0977-84-2257 FAX 0977-84-5203

絶望的なのは
今の現状ではない
現状に対する
対処の仕方だ

日本国憲法 第9条
日本国民は、正義と秩序を基調とする
国際平和を誠実に希求し、國權の發動
たる戦争と、武力による威嚇又は武力
の行使は、国際紛争を解決する手段と
しては、永久にこれを放棄する。
前項の目的を達するため、陸海空軍そ
の他の戦力は、これを保持しない。國
の交戦権は、これを認めない。

その日、私は佐賀地方裁判所で
の玄海原発『MOX燃料差止請
求事件・第3回公判』に傍聴人
として参加していた。世間でい
う「ブルサーマル裁判』である。
危険なMOX燃料を原発の燃料
として、そこではあっても絶
対使わせない（差し止めする）、
裁判である。連れ合いはこの裁
判の原告団130名の一人であ
り、私はサポート会員160名
の内の一人である。原告であれ、
サポート会員であれ玄海原発の

2011年3月11日（金）、
日本で一番古い1号機（稼働36
年）を初めてする全原発の事故
を心配する気持ちはみな同じで
求事件・第3回公判』に傍聴人
として参加していた。世間でい
う「ブルサーマル裁判』である。
危険なMOX燃料を原発の燃料
として、そこではあっても絶
対使わせない（差し止めする）、
裁判である。連れ合いはこの裁
判の原告団130名の一人であ
り、私はサポート会員160名
の内の一人である。原告であれ、
サポート会員であれ玄海原発の

今回の公判の論点は、「燃料
棒内圧評価値」という、文化系
出身の私には理解が難しいもの
であったが、なんとか、九州電
力は、国の原子力安全委員会の
中で説明した、燃料棒の内圧安
全度（MOX燃料の事故・危険
度回避のための基準値）より玄
海原発の方が危険数値なのにそ
れで良いのだと主張しているこ



裁判後の原告側報告会の途
中で、ノートパソコンでイン
ターネットを見ていた原告の
一人が「福島、山形等東日本
で地震があり、津波が来てい
ること、東京電力福島原子力
発電所が事故を起こす危険性
があるかもしれない」と指摘
した。それも自然発生的に、
大声でなされた。それを聞い
た原告・サポート等が一様
に考えたことは皆同じで「こ
が画一化されて、事故の被害
を小さく、小さく見せようと
するものです。事故をそのま
まではなく、わざと過小に見
せようと報道をしているな、
と思ったのは私一人だけでは
あるまい。「放射線レベルは
急性の放射線障害が出るほど
ではなく影響は軽微」という

と、そして原発を作った主体
である三菱重工の商業機密な
ので公開できない数値がある
と逃げている事が分かった。

通した恐怖感も持つた。指摘
されたとおり、次の日から福
島原発は、ご丁寧にどの原発
も、暴れ回り、悲惨な状況が
明らかになり始めた。内容に
ついては、この「宗教者9条
の会・大分ニュース32号」で

小坂さんが、「33号」で河野
さんがすでに書いているの
で、そちらにお任せするとし
て、重複は避けます。津波の
すさまじさも、原発の恐ろし
さも多くのメディアの報道で
知られたと思いますがひどい
ものでした。同時に原発事故
の報道管制のことをすぐには考
えた悪知恵にたけた人もいた
ようです。何日かすると報道
が画一化されて、事故の被害
を小さく、小さく見せようと
するものです。事故をそのま
まではなく、わざと過小に見
せようと報道をしているな、
と思ったのは私一人だけでは
あるまい。「放射線レベルは
急性の放射線障害が出るほど
ではなく影響は軽微」という

「まさにその日から」

日本キリスト教団津久見教会 野口春夫

騙しの文言を政府や東京電力などは何万回使ったのであるか・・・。「これは天の罰だと」言い始め、慌てて取り消した都知事の話しさは唾棄すべきものとしても、彼が自分の発言を取り消した理由はいつも無責任な発言ではすまされないほど、福島原発事故が起こしつつある、悲惨な状況に気がついたからであろうと思う。早い時期に「何十年も故郷を離れなければならぬ人々が出るかもしれない」と要求された一国の首相。――今では「何十年」などは小さな数字である――原発事故で強制避難させられた地区を視察した後、「ゴーストタウン（死の町）を見てきた」と言つては、「そのような言葉を使うな」と脅され、非難を受けた正直な政治家もいた。躍起になつて事故の被害を少なく見せようとする多くの「演出家」が跋扈した。誰がその様なことを言わせているのかな、とか。

裏で糸を引いているのは誰なのかなと思う。政府？ 東京電力？ 経済産業省？ 自民党？ 民主党？ 「5者暗黙の了解？」、原発推進で儲ける人？ いろいろ考えたがズバリ正解は「原発で利益を得る人」であろう。15年戦争中に行われた「報道管制」がこの形であったのでないかと推測できる。戦闘に負けていても、「撤退している」とか表現させたものと同じやり方である。

何か命を守るために自分もしなければと思い、6月28日に、株は持たないけれど九州電力の株主総会に応援に行く。そこには福島から避難して来て、湯布院に住んでいる親子（母子）とデモで知り合った後、「ゴーストタウン（死の町）を見てきた」と言つては、「そのような言葉を使うな」と脅され、非難を受けた正直な政治家もいた。躍起になつて事故の被害を少なく見せようとする多くの「演出家」が跋扈した。誰がその様なことを言わせているのかな、とか。

影響で下がっているというのに。あれだけの大きな原発事故をどう思つてゐるのか、と怒りがこみ上げる。

九州電力本社前での「座り込み」にも何度も参加する。そこでの九州電力との話し合いで社長は「福島原発事故のことは全然知りません」とぼける。子どもの頃福岡市中央区に九電記念体育館があり、そのそばにあつた九電の「エネルギー館」で原発の模型を見せられ、原発の「安全神話」を脳にすり込まれた自分が「バカだつた」と反省するばかりである。これからもう座り込みに出来るだけ参加しようとと思う。

8月15日に市民・仏教者・キリスト者が主催する『8・15平和を建設する集い』（於：福岡渡辺通教会）にも参加。集会後のデモコースはからの報告によると、脱原発株主の質問、要求については、会社は少しも真剣に考えていないなくて、議事を進めたという。九電の株価は福島原発事故のみる多さであつた。連れ合

いはその帰りに「急性虫垂炎」（いわゆる盲腸炎）に罹り、458名の人命が一度に奪われた、一命を落とさなくた。につくき九州電力株式会社め。

東日本大震災については、「阪神・淡路大震災」の教訓が今もある。（原発事故は津波ではなく地震で起こつてゐる）「阪神・淡路大震災」に遭つた後、大分に移住して住んでいる人に直接聞いた話しだけで、この切り羽で仲間は息絶えた。金のためには人の命を奪い去る奴らに怒りが燃える。金のためには人の命を奪うばかりである。これからも起きているが、支援金、募金の行く末を監視し、自死者をなくすのが課題である。しかし、とつくに自死者は今年も3万人を超えているのは残念なことである。

福島原発事故は一度に多数の人の命は奪つてはいけないが、これから先何十年と、眞綿で首を絞めるように、癌等で人を殺すのではないかと思う。東京電力はそれ（三井三池資本）よりもっと大きな罪を犯しているのではないだろうか。

ともあれ私たちには、行動すべき課題が増えた、天に召されるまで付き合つて行かなといといけないのかな？

現代文明の崩壊？

日野詢城

2011年これほど世界の情勢が揺れ動いた年があつたであろうか。くすぶり続けていたアフリカの民主化運動は独裁者を排除。次々に民主化運動はひろがり極めて大きな変化が起つたのであるが、未だ不安定な状況下にあることは変わらない。気掛かりになるのは資源を巡る大国のうごきが背後にあることだ。私たちのくにでは3月11日の「東日本大震災」。津波の被害や原発事故など、未曾有の大事故がおこり、行く先はまたたく見えてこないと言つて良いのだと思う。津波の被害については一応、復旧・復興というかたちで未来像を描くことが出来るのであろうが、福島の原発事故について12月17日、政府は「収束宣言」を出したが、事態は何一つ変わっていない。破壊された1号機から4号機の建て屋の中がどうなつてゐるのかの確認

すら取れていないのが現実である。

※ 開国という名の侵略史

今から150年ほど前になると、幕藩体制が大きなぼころびを見せていたところに「黒船の来襲」西欧の格違いの文明を見せつけられた。幕府の立て直しか新しい国作りなのかで小競り合いがあり、維新という形で日本は“統一国家”を樹立。開国という名で、列強大国と対峙する道を選んだ。廃藩置県の3年後には1874（M7）台湾に出兵。国内では開拓の名でアイヌに移住を迫り、今後増えるであろう戦死者のための神社として東京招魂社を靖国神社と改称したのが1879年である。89年（M22）『大日本帝国憲法』を発布、翌年『教育勅語』が制定され、5年後

ている。その10年後に日露戦争、様々な形で韓国の支配権を強め1909年（M42）には韓国を「併合」、徹底した植民地支配を始めアジア支配の拠点を作る。そして中国東北部に「満州国」を建國、中国全域を支配下に置くことをにらみ15年戦争を繰り広げ、中国を拠点にアジア全域に支配の手をのばすことになる。70年前のパールハーバーはその延長線上にあり、1945年、広島・長崎の原爆投下で敗戦となり、明治以降の開国史は一応の終結に向かることになった。

明治の始めのころ「散切り頭をたたいてみれば文明開化の音がする」という戯れ唄が流行つたと言う。『文明開化』で目指したものは「世の中がな“はいから”が流行るとともに、「野蛮なものを廢絶し、百般の事物を整える」ということ、アジア諸国の文化を野蛮なものとし、アジアの近代化を推し進めるという正義の名の海外侵略が始まるとわけである。そこには“文明”という言葉のトリックがあつたようと思う。野蛮の反対語が文明というトリック。野蛮を廃し文明を開くことは正義であり日本の使命だと…。「鎖国」で長い間海外の詳しい事情を知らなかつた日本、異なる文化そのものを“野蛮”と決めつけそれを排除してきたのである。

※ 文明開化という美名のもと



文化と文明はどう違うのかを辞書で調べると『広辞苑』で文化は「衣食住を初め技術・学問・芸術・道徳・宗教など物心両面にわたる生活形成の様式とその内容」とある。多様な民族・国家にそれぞれの文化があり、その文化は長い間に醸成されてきたという特性を持つ。

それに対して文明は「人知が進んで開けた世の中。特に生産手段の発達によつて生活水準が上がり、人権尊重と機会均等などの原則が認められているような社会、つまり近代社会のような状態」とあります。そして野蛮に対するものという意味が加えられています。文化には習俗を含む宗教性が強く生活基盤となつていることに対し、文明は「人知」の進歩を基盤とするという違

かのように見えたのだが、戦後の復興はアメリカの支配の元に行われ、本質的には“文明の再構築”ということになつた。

文化と文明はどう違うのかを辞書で調べると『広辞苑』で文化は「衣食住を初め技術・学問・芸術・道徳・宗教など物心両面にわたる生活形成の様式とその内容」とある。多様な民族・国家にそれぞれの文化があり、その文化は長い間に醸成されてきたという特性を持つ。

それに対して文明は「人知が進んで開けた世の中。特に生産手段の発達によつて生活水準が上がり、人権尊重と機会均等などの原則が認められているような社会、つまり近代社会のような状態」とあります。そして野蛮に対するものという意味が加えられています。文化には習俗を含む宗教性が強く生活基盤となつていることに対し、文明は「人知」の進歩を基盤とするという違

